

保護者様

北九州市立藤松小学校
校長 白木 浩一

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

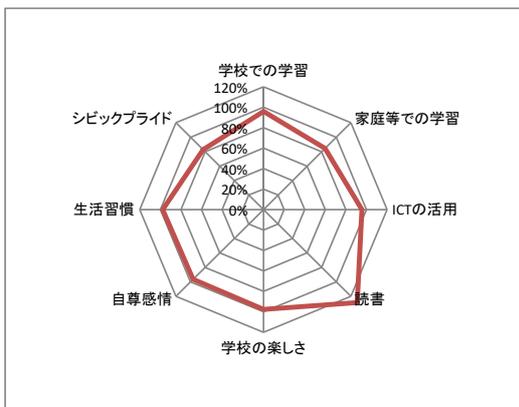
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	会話の中で必要なことを相手に質問したり、相手の伝えたいことを読み取ったりする力が育っている。資料やグラフなど様々な情報を読み取り、それを整理して自分の考えを付け加えて文章にするなど、思考力や判断力、表現力に課題がある。
算数	課題に対して簡単な式で表して計算するなど、短答式の解答はよくできている。また、加法と乗法が混合した式など正確に計算することができている。百分率で表された数字を理解し、分析して自分の考えを書くなど思考力や判断力、表現力に課題がある。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業では各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていると思う。」との問いに対して、児童の肯定的な回答は80%以上だった。今後も主題研究のテーマでもある「問題解決を楽しむ」学習活動や児童が考えを「伝え合う活動」を工夫して授業を実践していく。 ・「読書は好きですか。」との問いに対して、児童の肯定的な回答は90%以上だった。引き続き、様々な学習場面で読書活動を取り入れていく。 ・シビックプライドでは、コロナ禍のため、「楽しみにしていた様々な地域行事に参加できなかった。」という、児童の残念な気持ちが表れたと考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・今後も、各教科では児童の主体的な学習活動を進め、授業改善を図っていく。
 ・朝の裁量の時間や掃除後の20分間の補充学習の時間などを活用し、基礎・基本の定着を図る。また、タブレット端末でドリルアプリを活用し、それぞれの児童に合った進度で学習の復習を行っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「藤松小学校よいこのきまり」を配布し、児童や保護者に学習規律や生活について共通理解を図る。
 ・学んだことが定着し、活用できるようにするためにも、国語科と算数科を中心に家庭学習での課題をもたせる。引き続き、児童の自主学習ノートの推進を行っていく。